



被害防止対策の事例紹介 (地域でこんな対策を見つけました)

全面ネット張(ハイハウス利用)



ハイハウスの利用は、ネット張り、ハウス内での機械作業ができ、管理も容易。

5面ネット張(木・竹等利用)



材料・作成に手間はかかるが、中での作業がしやすい。冬期間は立杭を残し撤去。

ネット2重張(果樹園)



2重にネットを張ることにより、容易な侵入及び逃走を防ぐ。

ネット囲い(田)



田の周囲をネットで囲い、森林からの容易な侵入を防ぐ。

このほか、地域で有効な対策がありましたら、随時紹介していきますので情報提供をお願いいたします。



村上市有害鳥獣被害防止対策協議会 (H21.10.13設立)

本協議会は、「鳥獣による農林水産業等に係る被害防止のための特別措置に関する法律」に基づき、有害鳥獣による農作物被害に対し、関係機関による情報の共有と連携強化を図りながら、効果的な被害防除対策を推進することを目的に設立しました。

□構成機関

- ・村上市(事務局) ・新潟県村上地域振興局 ・JAにいがた岩船
- ・JAかみはやし ・下越農業共済組合 ・猟友会村上支部 ・鳥獣保護員

ホームページアドレス

<http://www.city.murakami.lg.jp/nourinsuisan/yuugaityoujuutaisaku.jsp>

「ニホンザル」

を誘引しにくい『集落環境づくり』

～農作物被害を防止～

有害鳥獣による農作物被害の解消は、地域農業の活性化を図るうえで重要な課題です。特にニホンザルは、丹精込めて作った農作物を荒らすにつつき動物ですが、森の生態系の重要な一員となっています。学習能力の高い動物ですから、そこを利用してうまく棲み分けていくことが大切となってきています。



生態と分布 (対策を考えるには、サルをよく知ることが大切です)

サルの能力

学習能力が高い(特に記憶力がよい)
運動能力が高い

数mmのへこみや突起があれば壁も登ることができる。
五感の中でも視力・聴力はすぐれている
エサなどの確認は目で行う。嗅覚は敏感でない。
集団生活はしているが行動はバラバラ



サルの生活

群れを作って日中に行動

20～100頭くらいの群れで、移動しながらエサを探す。でたらめに動くわけではなく、行動範囲はだいたい限られている。大きい群れほど広いエリアを移動する。

いわゆる「ボスザル」はいません

群れの動きは、成獣のメスが決めています。(メスザル駆除で群れが分裂した例がある)

サルの一生

寿命 野生のサルは長生きしても20歳程度。

最初の出産は6～7歳

3年に1回のペースで出産します。ただし、栄養状態がよくなると、1～2年に1回程度出産する場合があります。

オスは5～8歳で群れを離れます

オスは成長すると生まれた群れを離れます。群れを離れたオスは、他の群れに加入したり、オスグループを形成したりするほか、「ハナレザル」として単独生活をおくります。

村上市内の状況

ニホンザルの出没は市内ほぼ全域で確認され、被害をもたらすサルの生息数は14～22群・約840頭程度である。農作物被害は、山間部地域を中心に多発しており、特に6～8月の被害が最も多い。一度、作物の味と場所を覚えてしまうと栽培を続けている間中食害を繰り返している。食害している時間は、10～20分程度で、時間帯は6～11時と12～15時の間が多い。

まずは、鳥獣害の原因を突き止めましょう!!

農作物の鳥獣被害防止対策を推進するには、集落・地域ぐるみでの取組が最も大切です。「鳥獣被害防止対策点検リスト」を活用し、集落・地域みんなで話し合い、被害の原因や今後の取組等共通の意識・認識を深めましょう。

鳥獣被害防止対策点検リスト

分類	点検項目	点検欄
環境点検	家の庭や集落内の果樹は、全て収穫している	はい・いいえ
	お墓のお供え物は、必ず持ち帰る	はい・いいえ
	周辺の放棄果樹は、伐採した	はい・いいえ
	収穫しなかった作物は、畑に放置せず、すき込んでいる	はい・いいえ
	生ゴミは、外に放置していない	はい・いいえ
	耕作放棄地は、定期的な草刈りをし鳥獣の隠れ場所を減らしている	はい・いいえ
	集落や集落周辺の鳥獣の隠れ場所になりそうな茂みを減らしている	はい・いいえ
取組点検	被害対策について集落で話し合っている	はい・いいえ
	集落・地域ぐるみで、追い払いや耕作放棄地の草刈りをしている	はい・いいえ
	取組には、集落・地域全員が協力し合っている	はい・いいえ
	サルを見かけたら、必ず追い払っている	はい・いいえ
ほ場点検	とり残した農産物は、畑に放置していない	はい・いいえ
	畑には作物以外は、障害物がない	はい・いいえ
	被害に遭う作物は全て防止柵等で囲んでいる	はい・いいえ
	防止柵は、作物から離して設置している	はい・いいえ
意識・認識点検	鳥獣は、どこからきてどこへ逃げていくか集落全員が知っている	はい・いいえ
	集落の被害実態を知っている	はい・いいえ
	被害対策は、防止柵に頼るだけでなく、エサ場等を無くす取組を総合的に行うことだ	はい・いいえ
	被害対策は、集落地域ぐるみで、力を合わせて行うものだ	はい・いいえ
	絶対に諦めない!	はい・いいえ

※「はい」が増えるよう集落・地域ぐるみで、取組ましよう
 ※集落・地域の実情に合わせて項目の追加等を行いましよう

村上市有害鳥獣被害防止対策協議会

H22年度 実証試験結果 (被害防除への取組)

侵入防止柵実証試験



設置作業写真 (集落参加者:23名)



設置完了写真 (周囲:約400m)

□実証概要

実証地の千縄集落は、村上市(朝日地区)の北部に位置し、三面川に沿った中山間地に水稲を中心に営む農業地域です。これまで、サルによる農作物被害が多発し、耕作者が独自にネット等で自衛を行っていましたが、被害は減少には繋がらなかった。今回、隣接する荃太集落と協力し、猿害防止のモデル集落として、地域ぐるみで電気柵を設置しました。(H22.8.17設置)

対象面積(畑) 約 80a
 電気柵 周囲:約400m 出入口:5箇所 (3m×、2m×)
 パワーボックス、ソーラーパネル:1式

□実証結果

設置前や周辺農地では農作物被害がありましたが、この実証圃場では被害が無く侵入防止効果が確認されました。

効果大

□集落の声

電気柵の設置・撤去は思ったより簡単でした。サルに対してかなりの効果がありました。柵の中にサルが入ったのは1回だけでした。(入り口の扉を閉め忘れたため)被害が無くなり、野菜作りの意欲が増した人や、休耕していた人が再び耕作を始めようとする動きがあります。今後は、柵を設置したためにトラクター等の機械が自由に入れなくなったので、機械が入れるように道を作る話が進んでいます。

ウルフピー実証試験



設置写真(山北地区 岩石集落)

□実証概要

サルの撃退に効果があるとされる「狼の尿」を商品化した「ウルフピー」の実証試験を行いました。この試験では、各地区ごとに1箇所づつ(計5箇所)の実証圃場を選定し、設置図の要領によりウルフピーを設置し、8~10月までの約3ヶ月間調査しました。

設置箇所 村上(門前)・荒川(荒島)・神林(小岩内)
 朝日(岩崩)・山北(岩石)
 設置経費 ウルフピー、資材費:約14万円(協議会負担)

□実証結果

週3回の巡回で液補充、容器を振って臭いを出す等綿密な方法で実証を行ったが、残念ながら、当地域のサル群れでは、被害防止効果は得られませんでした。(嗅覚は弱いからなのか?)

残念

